

## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	神戸大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	古典力と対話力を核とする人文学教育 (学域横断的教育システムに基づくフュージョンプログラムの開発)		
主たる研究科・専攻名	人文学研究科文化構造専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 佐々木 衛		

### [教育プログラムの概要]

#### 【プログラムの目的】

神戸大学人文学研究科は、古典的文献の原理論的研究を踏まえた社会文化の動態的分析を通して、新たな社会規範や文化の形成に寄与する人材を養成することを目的としている。「文化・政治をめぐる諸制度にゆらぎや軋み」が現れている現代社会では、人文学研究者に対して、①専門深化による省察や批判、②文化の継承・発展、③現実的諸課題への関わりの強化、④異なる専門を理解し融合する能力も求められている(「人文・社会科学の振興について」H14.6文部科学省審議会報告)。すなわち、現代社会の諸課題に柔軟に対応するためには、原点に立ち返って抜本的に再検討する能力と、専門閉塞を打破し、課題を巡る具体的な応用によって、解決につながり能力とが同時に求められている。この点を踏まえ本取組は、人文学を現代的に深化させ、現実的諸課題に対応しつつ、学域を横断して発展させるための基盤的素養としての「古典力」の涵養を図る。また、この基盤の上に、異なる領域の専門家や市民と意思疎通し、人文学の学術的融合を推進できる、幅広い「対話力」を兼ね備えた人材養成を目的とする。

#### 【基盤となる実績・教育体制】

本研究科は、従来、本研究科固有の共同研究組織である「海港都市研究センター」、「地域連携センター」、「倫理創成プロジェクト」などによる共通科目を設定し、神戸と海外連携大学をフィールドとした実践を通して、学域横断的な教育手法を開発してきた。その成果は、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ(H17～18)の取組に集約された。また、円滑な学位授与のため「学修プロセス委員会」の管理の下、「論文指導チーム」を置いている。しかし、研究者に加え高度専門職業人養成をも視野に入れた、上記の人材養成実現には、研究科が更に一体となって取り組む融合的教育プログラムの創出が必要である。

#### 【プログラムの内容と特徴】

本取組は、これまでの実績と課題を踏まえ、「古典力」と「対話力」を核とする人文学教育のプログラムとして、原理論的研究とフィールドワークを融合させた、学域横断的な「人文学フュージョンプログラム」を開発するとともに、更に充実した対話的指導体制を構築する。本取組の特徴は、前期課程の基盤プログラムと後期課程の発展プログラムそれぞれに、共通科目としての科目群と、古典力と対話力の涵養・応用・深化を図る多様な「場」を設けている点にある。さらに、学修プロセスフローにおいて、チュートリアルやコミュニケーションペーパーの活用等、徹底した少人数教育を実現する教育手法を導入する点にある。

**<基盤プログラム>**「古典力」と「対話力」の基盤的能力の涵養のため、「融合人文学基盤科目群」を開発するとともに、その涵養の「場」として、チューターを配置した「古典ゼミナール」を設け、各科目で活用する。具体的には、現代の人文学で共通の鍵となる諸概念の理解や問題の認識を可能にするために、前期課程の共通科目を再編するとともに、新たに「古典力基盤研究」を開発する。

**<発展プログラム>**「古典力」と「対話力」を学術的かつ応用的に発展させるため、「融合人文学発展科目群」を開発するとともに、その能力の展開の「場」として、「コロキウム」、「古典サロン」、「フォーラム」を設け、各科目で活用する。具体的には、学術研究の企画運営やアウトリーチに関わる幅広い能力の養成を可能とするために、後期課程の共通科目を再編するとともに、新たに「古典力発展演習」を開発する。特に、1)「コロキウム」では、海外連携大学との共同実施などを通じた古典力と対話力の学術的展開、2)「古典サロン」では、学術推進研究員等が指導し、学生が一般市民と触れ合いながら表現力や企画運営を学ぶなど、市民へのアウトリーチの実践、さらに、3)「フォーラム」では、異なる学域の専門家との学術的対話を、若手研究者が共同で企画・運営し、社会との学術的対話力の展開を図る。

**<論文作成・指導プロセス>**研究科として作成している学修プロセスフローに基づき、学修プロセス委員会が学位授与へと導くプロセスを管理する。その下で、複数教員からなる論文指導チームが修士・博士論文の作成を指導する。指導に当たっては、論文指導チュートリアル及び高度な導入教育のためのフォローアップ・チュートリアルや、公開研究報告会の発表、論文指導時においてコミュニケーションペーパー等の対話的指導方法を徹底する。これらにより学位授与率の上昇と学位論文の水準向上を促す。

#### 【養成する人材像】

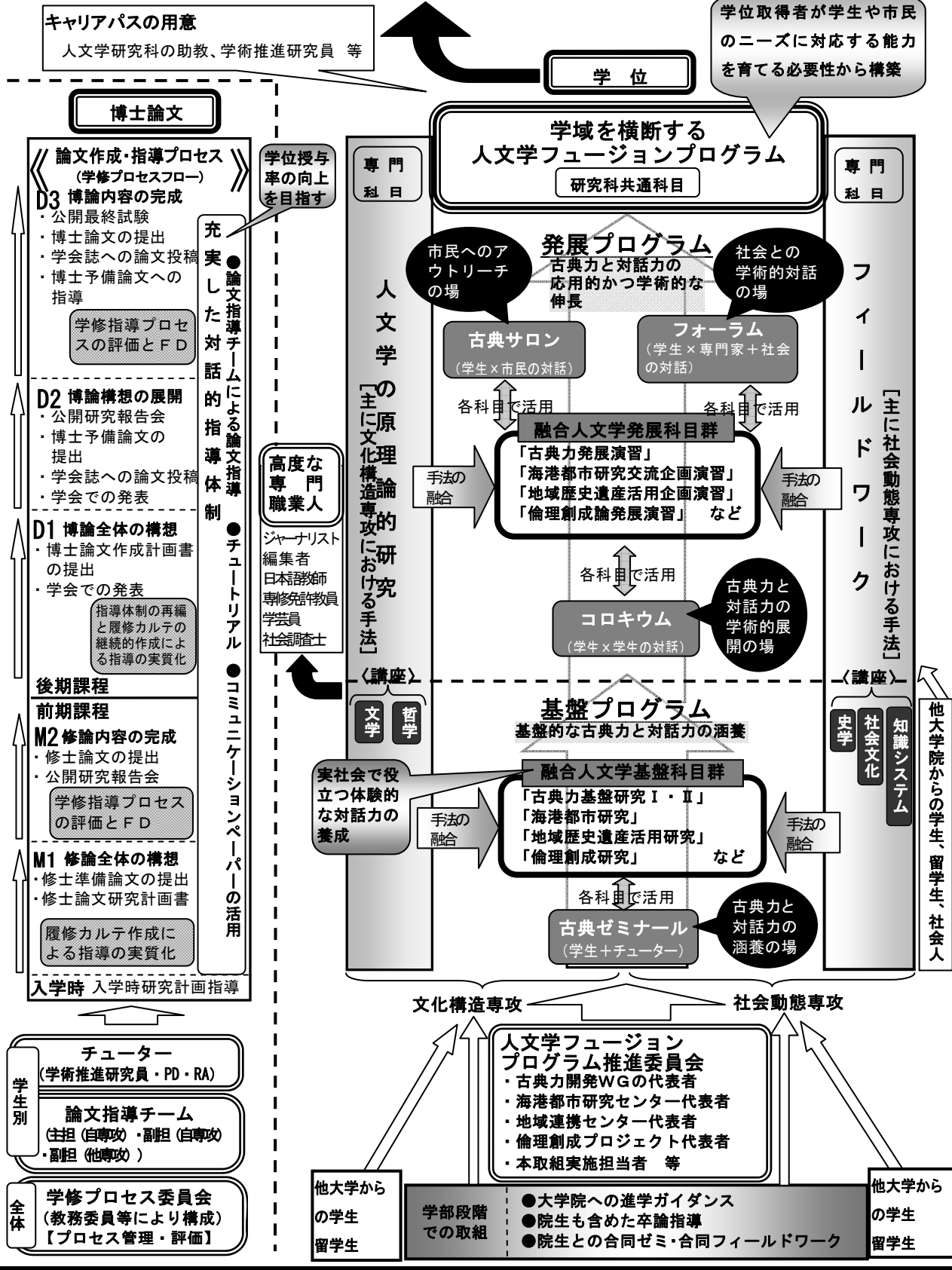
以上により、前期課程では、専門応用能力や、学域横断的な研究交流を行う意思疎通の力を持った、ジャーナリストや専修免許教員などを養成する。また、後期課程では、研究者として自立して研究活動を行う高度の研究能力を身に付けさせる観点から、次のような人材を養成する。すなわち、1)新しい研究対象や方法を開発しうる研究者、2)一般教養教育などの場で多様な学生に対応できる大学教員、3)地域の多様な文化的ニーズに応えうる高度な学芸員などの専門家といった、異なる専門を理解し融合する能力を持つ人文学研究者・高度な専門職業人である。

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

## 古典力と対話力を核とする人文学教育 — 学域横断的教育システムに基づくフュージョンプログラムの開発 —

**異なる専門を理解し融合する能力を持つ人文学研究者・高度な専門職業人**

●新しい研究対象や方法を開発しうる研究者 ●一般教養等で多様な学生に対応できる大学教員  
●地域の多様な文化的ニーズに応える高度な学芸員などの専門家



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、人材養成目的と課程において身に付けさせるべき知識・技能が明確であり、ホームページ上で多言語による情報提供がなされている点は評価できる。

教育プログラムについては、「魅力ある大学院教育」イニシアティブの成果を踏まえ、学域横断的な能力を養成する「人文学フュージョンプログラム」という研究科共通科目群を設置し、原理論研究とフィールドワークという異なる教育手法を融合させる意欲的な試みであり、博士前期課程の「基盤プログラム」として人文学の基盤的素養である「古典力」と、それを活かすための「対話力」という重要な能力を大学院生に修得させるとともに、博士後期課程の「発展プログラム」において古典力と対話力を発展させる場として、「コロキウム」「古典サロン」「フォーラム」等、多様な取組が計画されている点は高く評価できる。また、学修プロセスの明確化、人文学フュージョンプログラム推進委員会の設置など、計画を組織的に運営するための体制作りも工夫されており、実現性の面からも期待できる。更に、本プログラムは大学全体の中での位置付けが明確で全学的な支援体制も着実であり、今後の展開が大いに期待できる。